令和６年度第２回第４次子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

１　開催日時

令和６年１１月５日（火）　１０：００～１２：００
岐阜県庁　３階会議室にて開催

２　概要

「第４次子どもかがやきプラン　アクションプラン２０２５」（案）の施策内容及び特別支援教育における課題及び取り組むべきことについて、意見を聴取した。

３　委員から出された主な意見

・大垣特別支援学校と東濃特別支援学校については、教室数が不足している状況であるが、児童生徒数は増加傾向にある。教育の安全性を保つためにも早急な整備をお願いしたい。また、特別支援学校設置基準の数値に表れない問題にも目を向けてほしい。
・郡上特別支援学校の１校舎体制への整備については、保護者からも要望があるため早急な整備をお願いしたい。また、那比校舎は車椅子に対応した構造になっておらず、肢体不自由の生徒にとっては通いづらいため、改修等で対応してほしい。
・可茂特別支援学校は高等部棟ができたことで、教室や職員室に余裕ができた。
・郡上特別支援学校は２校舎が離れているため、１校舎であれば重ねられる業務が分散し職員の負担になっている。１校舎体制の早期の実現をお願いしたい。
・児童生徒の集団性は大事である。児童生徒数の減少に伴って学校のあり方が変わっても、学習環境と教育の質は保証されなければならない。
・「高等特別支援学校機能に関する検証・検討委員会」の委員として、地域の仕事の様子をよく知る方に入っていただき、地域ごとの特性に合った学習内容などについて意見をいただくとよい。
・高校通級について、専門的な見方が出来る特別支援学校籍の教員が担当しているからこそ成り立っているという捉えをしている高校が大半であり、高校籍の教員の特別支援教育に対する意識向上が課題である。
・就労については、生徒本人への支援だけでなく事業主への支援もしていかないと、職場定着を図るのは難しい。生徒の卒業後の長い人生を見据えた、教育・労働・福祉の連携が必要である。
・新型コロナが追い風となり在宅就労を採り入れていこうという会社が増えている。会社に出勤することが難しくても在宅就労という可能性もあるので、そういった在宅就労に向けたノウハウについて情報を得るのはよいことである。
・医療的ケア児の泊を伴う活動については、夜間の状況が想定しづらい場合もあり心配もあるが、県教育委員会の指導をふまえ進めていきたい。
・医療的ケア児の通学支援については、当日朝の児童生徒の体調について保護者から丁寧に聴き取り、安全に通学できるかどうかを十分に確認した上で実施する必要がある。
・医療的ケアに関して、学校看護師と保護者、先生との間の意思疎通が円滑に図られるよう、保護者を含めた勉強会のようなものがあるとよい。
・特別な教育的支援が必要な子どもが校外での活動に参加する際に、保護者の協力も

大事だが、仕事の都合を付けるのが難しい保護者の方は大変だと感じている。

・小中学校の管理職や職員が、特別支援学校のセンター的機能について知っておくことは必要なことである。

・小中学校の特別支援学級、通級による指導を受ける児童生徒数は、しばらく高止まりの状況が続くと思われる。一方、就学前のお子さんへの療育の多角化、多機能化が進んでいることも踏まえると、特別支援学校のセンター的機能がより積極的に活用されるよう、小中学校等と連携を図っていく必要があると思う。